

令和 7 年 8 月 4 日

浜田市議会議長 様

議員名 佐々木 豊治

調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察を行ったので報告します。

記

1. 視察先

- ・滋賀県蒲生郡日野町
- ・滋賀県近江八幡市

2. 視察事項

- ・日野町 高齢者の生活支援について
- ・近江八幡市 不登校傾向の子どもの居場所「スペシャルサポートルーム」の取組について

3. 視察の目的（市政との関連など）

- ・日野町の視察内容は高齢者の生活支援で、①移動支援 ボランティアの自家用車による送迎サービス「おたすけカゴヤ」、②地域交流 「東桜谷おしゃべり会」や「おしゃべり食堂」などの取組。
当市での地域が協力する中での高齢者支援を参考にするもの。
- ・近江八幡市の視察内容は不登校傾向にある子ども達が安心して過ごせる「スペシャルサポートルーム」を昨年度から市立小学校 11 校に開設した取組み。
昨年度から試行的に始まった当市での「校内フリースクール」の参考に
するもの。

4. 期間（移動日を含む）

令和 7 年 7 月 31 日（木） ～ 令和 7 年 8 月 1 日（金）

5. 経費

42,674 円



(経費内訳 宿泊代 11,200 円、旅費 31,474 円、)

6. 視察のポイント・議員活動や市政への反映など

・日野町の視察内容は高齢者の生活支援で、町の社協さんが入り、東桜谷地区の高齢者支援として移動支援「おたすけカゴヤ」や、食事の提供「おしゃべり食堂」などの取組のお話を、地元のボランティア団体の代表の方々から伺った。

特に「おたすけカゴヤ」の取組では「この地に住んで良かったと言ってもらえるような取組にしたい」と7年目に入っており、運転手の確保が課題とされながら地域をあげて頑張っておられる様子から、地域の絆も感じるものだった。

・近江八幡市では重層的な不登校対策が講じられており、特に2年前に始まった「スペシャルサポートルーム (SSR)」の取組など中心に伺った。

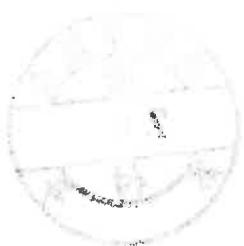
SSR はほぼ小中学校全校の空き教室に設置され、利用も増えており、良い成果も出ていた。

また、以前から取組まれている行政主導の「子育てサロン (親同士の交流の場)」に2年前から、不登校傾向にある保護者にも声をかけ10人くらいの参加があるとのこと。

学期に1回開催されており、子育てのつらい思いなど共有でき、毎回の開催を楽しみにされているとお話しだった。

民間のフリースクールに通所する児童生徒の保護者に対して、支援金の補助が取組まれており、上限月4万円の半額を補助し、生活保護世帯は全額を補助するもので、さらに事業を行う施設に対しても1施設200万円を補助しておられた。

参考にすべき取組が非常に多くあると感じた。



令和7年7月31日 滋賀県蒲生郡日野町

※高齢者の生活支援について

◆市の概要

人口 20,000 人

面積 117,6 平方キロメートル

滋賀県南東部、鈴鹿山系の西麓に位置し、町の花である「しゃくなげ」が咲き誇る自然環境に恵まれた町。

漆器や薬売りの行商から発展した日野の承認は近江商人の基礎を確立し、その中心の町として繁栄してきた。

◆事業の概要

町内で先進的に高齢者支援に取り組んでおられる東桜谷地区の代表お二人から説明を受けた。

東桜谷地区の概要

日野町北東部に位置する農村地域で、町営バスの本数は少なく不便で、バス停までの距離もある。

人口は 1,282 人、高齢者は 612 人。（高齢化率 47、74%）

令和元年5月に「東桜谷おしゃべり会」を設立し、いつまでも生き生きと暮らし続ける事ができる地域を目指した。

経緯としては町社会福祉協議会からモデル事業の相談を受け、みんなでまずは勉強しようと立ち上げた。

様々な声が上がり、移動支援や食事会などができたが決まらずに移動支援事業「おたすけカゴヤ」を立ち上げた。

利用状況は令和6年度は 115 人。運転ボランティアは登録書 21 名となっている。

令和元年5月「おしゃべり会」の立ち上げと共に、「おしゃべり食堂」をスタート。1食300円に。

二カ月に一回継続して実施中。

さらに地域の困り事ニーズ調査を行っている。

◆所感

人に親切にする近江商人の精神が宿っている取組と感じた。

高齢者の移動支援など、地域の困りごとを我がこととして取り組んでおられ、地域の絆を感じるものだった。

運転手の確保や事故の場合の対応など課題もあるようにだが、すでに7年目に入り、他地域も東桜谷地区を参考にした取組も複数の地域が始まっており、これからも他の事業も検討されており、さらに住みやすい地域が進んでいくものと感じた。

※令和7年8月1日 滋賀県近江八幡市

不登校傾向の子どもの居場所「スペシャルサポートルーム」の取組について

◆市の概要

人口は81,000人。面積は177,45平方キロメートル。

滋賀県中部、琵琶湖東岸に位置し、近江商人や安土城で知られる。

2006年には「近江八幡の水郷」として、重要文化的景観の第一号に選定された。

◆事業の概要

近江八幡市では昨年4月から小学校11校、中学校4校に教室に入りづらくなった児童生徒が安心して過ごせる「スペシャルサポートルーム(SSR)」を解説している。各校1人以上の支援員が常駐し子どもたちをサポートする取組を視察したもの。

不登校児童生徒への支援のあり方として、国は「学校に登校する」という結果のみを目標とするのではなく、社会的に自立することを目指している。

不登校の未然防止、早期対策の取組として3つの共通実践に取り組んでいる。

①不登校の未然防止を意識した欠席連絡への対応

②不登校予防のための「予防チェックシート」の活用

③支援レベルに応じた対応

①から②に取り組んでも欠席が続いたりする子供に対しては③に移り、支援レベルに応じた対応を行う。

内容は家庭訪問のほかに、「学校での別室(スペシャルサポートルーム)登校」「放課後登校」「教育相談室での面談」「にこまるルーム教室」「にこまる訪問による訪宅」などに取り組む。

1、教育相談室

電話相談、来所相談を専門員が行い、解決の糸口を見いだす支援。

2、訪問相談室

在籍校で専門員から相談を受ける事ができる。

3、教育支援ルーム(にこまるルーム)

市内1ヶ所に設置しており、教育免許を持った支援員を配置し、個人に合わせた活動や学習など行なっている。

4、訪問型教育支援(にこまる訪問)

児童生徒の自宅や公共施設などで、教員免許を持った支援員が訪問し必要な支援を行う。

・スペシャルサポートルームについて、
各学校に支援員を配置し、教室には入れない子などに対し、学級担任と連携しながら子供に寄り添った学習や支援を行う。

小学生の4月から6月のSSRの人数はR6年は28人、R7年は54人。
成果としては「不安感を解消する事ができた」、「遊ぶ時間や自分の思いを表出する事ができた」、「自己決定できる場になった」など。
教職員のSSRに対する意識の差や保護者に提案するタイミングが難しいなどの課題もあるが、利用した子どものプラスの変容など周知し、取組を進めていく。

・親同士の交流について
以前から取り組まれている「子育てサロン」に2年前から、不登校傾向にある保護者にも声をかけ10人くらいの参加がある。
学期に1回開催されており、子育ての苦しい想いを共有でき、楽しみにされているとのこと。

・フリースクールの支援金について

民間のフリースクールに通所する児童生徒の保護者に対して支援するもの。

上限月 4 万円の半額を補助し、生活保護世帯は全額を補助。

事業を行う施設に対しても 1 施設 200 万円を補助している。

◆所感

不登校傾向の児童生徒にたいし、重曹的な手厚い支援が行われていると感じた。

スペシャルサポートルーム導入前は、市内に 1 ヶ所にこまるルームを設置されていたが、みなが通いやすい小中全校の配置されたもの。

配置されている支援についても教員免許を持った人材が多く配置されており、学習意欲がある子供にも対応されていた。また、民間のフリースクール事業者は、通所している子どもの保護者にも支援が行われており、今後参考にすべき取組が多くあると思う。